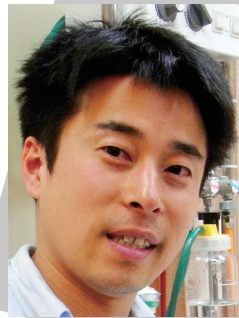


日時：2016年12月16日(金) 18時30分〜20時

場所：新座キャンパス7号館アカデミック・ホール

入場無料

申込不要



【講師略歴】1980年北海道旭川市生まれ。東京大学文学部卒業。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。同博士後期課程単位取得満期退学。山形大学男女共同参画推進室などを経て、現職。専門は社会学とジェンダー研究。埼玉県新座市在住、4歳と2歳の子の父。論文：2014年「都市における保育の共同：埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究』65(4)：592-610。『社会学評論』65(4)：592-610ほか。

親大に保育不足を 「保育不足」を 「保育不足」を 「保育不足」を 「保育不足」を 「保育不足」を

講師 坂無澤氏
立教大学コミュニティ福祉研究所
埼玉県新座市の団地共同保育の事例から新座の

「保育園落ちた」が話題になった2016年。

待機児童問題は都市部や低年齢児を中心に深刻な問題となっている。出産後も仕事を続ける女性は増えていくが、働く男性・女性の長時間労働は変わらない。保育問題は児童の福祉はもちろんだ、子を育てる親の働き方と生活全体の問題であり続けている。そのような現在へのヒントを得るためにも、本講演では、埼玉県新座市の公団団地における共同保育を取り上げる。この地域は1970年代から急激な人口増加と保育不足を経験した。保育不足に悩む母親・父親の中から団地の一室で共同保育を始めたグループが生まれ、現在まで約40年地域で大きな役割を果たしている。ジェンダーの観点を中心に、どのように共同保育が始まり、継続してきたか、また、このような共同保育や子育て支援がどのようにコミュニティを充実させてきたか、他地域の事例も参照しながら考えたい。